

風疹（三日ばしか）

愛媛医療生協

風疹は、風疹ウイルスによる急性発熱性発疹性感染症です。

【感染経路】 飛沫や接触で感染します。ウイルスは発疹出現前後 1 週間、唾液中に排泄されます。

【潜伏期間】 平均 16～18 日

【症 状】 病状は年齢によって異なります。乳幼児では発熱もなく発疹も軽症ですが、年長児や成人では発疹とともに発熱し、関節痛を訴えることが多く、症状も強い傾向があります。

発熱は一般的に軽度で、2～3 日で解熱します。融合傾向を伴わない淡紅色紅斑が発熱と同時に顔から始まり、頸、身体、手足へと全身に広がります。頸部、耳介後部のリンパ腺が腫れます。リンパ節は発疹の出現する数日前より腫れはじめ、発疹が消えてから 1～2 週間、長ければ数週間持続します。

【治療と看護】 特異的治療法はありません。食事は普通で構いませんが、熱のある時は水分を多めにとらせて下さい。

【隔離期間】 発疹が消失するまでの 3 日間

【合併症】

①**血小板減少性紫斑病**：1/3,000～5,000 人の頻度で発症するとされています。鼻血が止まらなかつたり、紫斑（圧迫しても消えない出血斑）が出現した場合は、直ぐに病院を受診して下さい。

②**急性脳炎**：発疹出現後、平均 3.5 日に突然痙攣の重積で発症する事が多く、意識障害、歩行障害などの症状が現れた場合は、直ちに受診して下さい。

③**関節炎**：思春期以降の女子に多く、指の関節、次いで手首や膝に出現します。

【確定診断】 風疹の診断は症状のみでは不確実です。少なくとも女性では急性期の IgM 抗体価の測定や、既往を確認するための風疹 HI 抗体価の測定を行い、診断を確実にすべきとされています。

【予防接種】 MR ワクチンを 2 回（第 1 期：1 歳、第 2 期：就学前の 1 年間）接種します。第 5 期 1962/4/2～1979/4/1 生まれの男性。

【全数報告】 2008 年に成人を含む全数把握疾患となりました。

【先天性風疹症候群】

風疹に妊娠 20 週、特に 12 週までの妊婦がかかると、感音性難聴、白内障、先天性心疾患などの症状を有する異常児が生まれる可能性が高くなります。したがって妊娠前に風疹にかかっているか、あるいは風疹ワクチンの接種をしていないお母さんは、妊娠前に予防接種を受けておきましょう。
(2020.5.8)